

(4) 前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

令和4年度重点目標		1 将来を見据える～キャリア教育の充実～ 2 知性を伸ばす～学習指導の充実～ 3 信頼される人間になる～生徒指導の充実～ 4 豊かな心を育てる～心の教育の充実～ 5 業務改善と在校時間の適正化を図り ～効果的な教育活動の推進と教職員の健康維持～	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
キャリア教育の充実 (進路指導) (各学年)	進路意識の醸成	キャリア教育と結びつけた進路計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環として『しゃべり場』の活動を定期的に行うことができ、参加生徒の職業観を育成することができた。次年度以降も継続的に実施していくための体制作りが課題である。 グループでの探究活動、プレゼンテーションを実施することで、自己の特性を発揮するための機会を与え、その発揮の方法を模索させることができた。 時機を得た進路情報の発信について、昨年度より進路室を毎日開放したことにより、3年生の利用は大幅に増えた。また、1、2年生の担任が生徒を連れて進路室を利用する機会も増えた。 4月の避難訓練では想定される問題を設定し、実践的な訓練を行った。また9月の防災訓練では防災クイズを実施し災害時の対応を考えさせ防災意識を高めた。
	SETの時間の充実	SETの時間でのグループワーク、プレゼンテーションの機会を充実させる。	
	時機を得た進路情報の発信	進路だよりの発行、進路室の積極利用を促進する。	
	防災教育の充実	災害時の状況を具体的に想定した防災教育を実施する。	
学習指導の充実 (教務) (進路指導) (各学年)	教科指導力の向上	授業の改善と工夫への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教科会や研究授業などを通して新たな視点からの授業改善を進めることができた。さらに質を高めていくのが課題である。 新学習指導要領は、観点別学習状況の評価も含めて各教科で来年度も検討を続けていく必要がある。 ICTの活用も徐々に進んでいる。今後さらに研究を重ねていく必要を感じる。 進路実現に必要な学力の育成については、補充学習会などを実施することで学力を伸ばすことができたが、欠席する生徒が増えるという課題が残った。 日々の学習記録で学習した時間、定期考査の計画表で学習した内容を可視化することで、家庭での学習習慣の確立を促した。取組の成果は個人差が大きくなるように思える。より質を高めていくためには、生徒が振り返りをしてPDCAサイクルを回したり、担任が面談の資料としての活用したりする必要がある。 テストごとに家庭学習の計画、結果の振り返りをさせた。PDCAサイクルとして回すためには、特に振り返りに重点を置いて指導することが必要であると感じる。
	新学習指導要領への対応	観点別評価のための評価規準を作成する。 ICTの活用を進める。	
	進路実現に必要な学力の育成	授業以外の補充学習指導などの利用により、学力伸長をはかる。 家庭での学習習慣の確立。	
生徒指導の充実 (生徒指導) (各学年)	規範意識の高揚	挨拶を励行する。 身だしなみ意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に身だしなみ指導を実施し、生徒の意識向上を図ることができた。挨拶の励行を含め、規範意識を高揚させるためには日常における指導が重要であるという意識を、全教員で共有していきたい。 遅刻防止週間を設定し5分前登校を呼びかけ、生徒の意識向上を図ることができた。折に触れて「8時35分登校完了」を呼びかけていく必要があると感じた。
	基本的生活習慣の確立	登校指導を通して不注意遅刻を減らす。 (遅刻防止週間の設定)	
心の教育の充実 (特別活動) (保健)	生徒会および委員会活動の充実	生徒会役員が、自主的・主体的に企画・立案を行い、各種委員会と協力しながら実行できる能力の育成をはかる。 美化委員会活動を通し、環境美化の意識を育てる。 保健委員会活動を通し、衛生意識の向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒議会を中心に、生徒会役員、委員会、議員が、主体的にかつ有機的に活動できる環境を整え、必要に応じて教員がサポートできる体制を心がけた。生徒会活動、委員会活動、生徒議会活動ともに仕事を通して良い経験をし、有益な知識となつて意識の向上につながった。活動の体験・成果によってより多くの生徒を感化できるように、引き続き更なる活動内容の充実を努めたい。 美化委員会活動では、生活の環境を整え、落ち着いた学校生活を送れるよう環境整備を行った。 保健委員会においては、校内放送で全校の感染症予防の意識を高めたり、保健だよりを通して衛生意識の啓発に努めることができた。生徒が健康について学びたいという意欲をさらにもてる動機付けできるように働きかけをしていきたい。 コロナ禍の中で変更点・制約が残る飛翔祭となったが、3年生がリーダーシップを発揮して各団をまとめ上げた。良い伝統として下級生に引き継げるよう指導を続けたい。 特別支援委員会や学年会、学年主任会で情報共有し、SCやSSWや外部機関とも連携し、気になる生徒を早期に発見し支援につなげた。
	飛翔祭(文化祭・体育祭)の充実	飛翔祭の活動を通じ、3年生のリーダーシップを育む。	
	教育相談活動の充実	支援が必要と思われる生徒の早期発見と対応を進める。	
学校いじめ防止基本方針に基づく取組 (生徒指導) (保健) (各学年)	いじめ防止対策の推進	未然防止と早期対応に努め、相手の気持ちを慮ることができる生徒を育てる。 (生活アンケートの実施)	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートを実施し、早期発見、早期対応につなげることができた。今後は未然防止の観点から、いじめの起こりにくい学校・学級づくりを目指したい。
教員の資質向上 (図書研修) (各教科)	現職研修の充実	年間6回の全体研修を実施する。 授業研修週間の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修を通して、学校教育において教員に必要な資質・能力を身につける機会を作ることができた。外部講師を招き、より専門性と実用性のある研修を行なうことができた。 授業研修週間を通して、教科問わず様々な授業を参観したり、教員が自らの授業を振り返る機会を設けることで授業改善の一助とすることができた。
	適正な勤務時間管理、長時間労働による健康障害防止(各分掌)(管理職)	業務の見直しと効率化を図る 在校時間等の状況記録の結果を活用し業務の適正化を図るとともに教職員の適切なメンタルヘルス保持に努める。	
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> スクールポリシーを重視し、本校独自のキャリア教育を軸に据えた進路意識の醸成や職業観の育成等が全校での取組になっていることは評価できる。 新学習指導要領への対応については、1年生を中心に観点別学習状況の評価も含め、各教科で熱心な取組を継続している。9月には生徒全員にタブレットが配付され、ICTの活用にも積極的に取り組んでいる。 		

- ・コロナ禍ではあったが、地域との連携については地域清掃活動などの活動が徐々に再開できた。
- ・在校時間等の状況記録を活用し、勤務時間を把握することで、教職員のタイムマネジメント能力の涵養とメンタルヘルス向上を目指した結果、退校時間は少しずつ早くなってきている。

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路目標達成に向けた進路意識の向上について 2 確かな学力の習得への取組について 3 基本的な生活習慣の確立、社会人としての規律やモラル・マナーの習得について 4 健康な心身や自他の命を大切にすることの育成について 5 学校行事や部活動の充実など活力ある教育活動の推進について
自己評価結果について	令和4年度の重点目標の達成度について領域別・各項目ごとに自己評価を行った。
今後の改善策について	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育を軸に、学習指導、進路指導等の指導を進めることは今後も堅持したい。また、コロナ感染症対策を講じながら、生徒の主体的取組や学校生活に対する意欲の向上を図ることができたので、継続していきたい。 2 「あいちラーニング推進事業」重点校として、研究授業や公開授業週間、授業評価等を活用し、教員の授業力向上を図ることができた。また、ICT活用を積極的に進めることができた。さらに、新学習指導要領を実施し、評価規準・評価方法の見直し、研究を進めた。今後一層、生徒が主体的に取り組むことのできる授業内容や課題を工夫し、学力伸長を促したい。 3 生徒指導面は、遅刻ゼロ週間や遅刻多数者への面接指導を通して、遅刻数の減少を目指した。コロナ禍が続く中、顕著な成果を出せたわけではないが、きめ細やかな指導の結果は徐々に出てきている。また、交通安全は毎年の大きな課題であるが、PTAや地域との協力によって交通安全指導や生徒安全委員による立哨活動などを活性化させた結果、交通安全意識が向上した。余裕を持った登校時間を設定させ、交通マナーの遵守を徹底させるとともに、様々な角度から命の大切さを伝え、交通事故ゼロを目指したい。 4 令和4年度もコロナ感染症の影響で教育活動が制限された部分があったが、部活動、学校行事など様々な工夫を行い、PTAなどの協力も得て次第に活性化しつつある。今後も、感染予防に努めながら一層の活性化に努めたい。情報発信については、地域の小中学校との連携を積極的に進めつつあるが、学校ホームページの更新頻度をさらに増加させたい。
その他（学校関係者評価委員から出された意見・要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべり場の活動が素晴らしい。地域の様々な社会資源を利用して、生徒が自分の将来を考えて活動している様子がよくわかる。今後は、地元の企業など、もっと協力してもらえるとよい。 ・ジョブカフェなど、キャリア教育に力を入れての取組が評価できる。仕事について知るよい機会となっているようだ。 ・制服や、アップデートプランで新しく学校が変化していくことに期待している。 ・部活動はまだ制限もある中で素晴らしい結果が出ており、素晴らしい。生徒が生き生きと活動しているのが分かる。 ・学校周辺の地域清掃活動など、生徒自身が地域とともに行動する活動が出てきているのがよい。続けてほしい。 ・本年度もコロナ禍の中で、地域とのつながりも難しかった。若い人たちにも地域に関心を持ってもらいたいと考えているので、今後、地域と学校との交流を深めてほしい。 ・入学式や卒業式の際にすれ違った生徒から挨拶があり、しっかりマナーが身につけていると感じた。

(5) 経営管理上の問題点等

ア 管理運営

- (7) 経験の浅い教職員の増加。ミドルリーダー層の不足。

経験豊富な教職員にとっては常識的と言うまでもないことが経験の浅い教職員には十分に理解されておらず、ホームルーム経営や教科指導についての細かな調整や確認が必要である。

- (イ) 学年間、分掌間の連携不足。

学年主任会での連絡・調整機能を一層強化していきたい。

- (ウ) 教育活動の外部への効果的な発信

ホームページ更新回数増加、学校通信の地域・中学への発信など、本校で行っていることを積極的に発信することで、保護者や中学校、地域の方に理解してもらう一層の努力をしていく必要がある。また、保護者が欲しい情報を提供できるようにする。

イ 施設・設備

- (7) 屋上・外壁等の老朽化。該当箇所の改修をする。

- (イ) 本館の大規模改修を円滑に進められるよう対応する。

- (ウ) 校舎・施設の不具合箇所が目立つようになってきた。維持と整備に努めるとともに、保全・管理を徹底する。